

刊行にあたって

広島大学マネジメント学会は、広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻の所属教員と在学院生および修了生等によって、2000年に設立された学術団体である。この学会が刊行する学術雑誌が『広島大学 マネジメント研究』である。

本誌は第3号（2003年3月刊行）からレフリー制を採用している。具体的には、投稿論文等については、2名のレフリーが審査し、本誌編集委員会がその採否を決定している。2名のレフリーの審査結果が異なったときには、編集委員会において協議し、より厳しいレフリーの審査結果を採用している。その結果、この第18号においては、投稿件数6件に対して5件の掲載が採択された。その内訳は、表紙目次に示されているとおりである。論文として投稿されたもののうち2件は研究ノートとしての掲載が許可された。そのほかに本専攻教員による投稿論文1編をも掲載している。

また本誌は創刊以来、本専攻に所属する専任教員の1年間の研究業績を掲載してきた。これは、われわれ国立大学教職員が税金と授業料収入などの財源によって雇用されている以上、研究業績の公表はもちろんのこと、その学歴や経歴をひろく社会に公表または開示することは、われわれの「雇い主」またはスポンサーに対する当然の義務とする考えからおこなっているものである。

本専攻に在学する院生のほとんどは社会人である。昼間は会社や役所などで勤務し、夜間や土曜日に講義やゼミを受け、深夜や日祭日を中心に論文や研究ノート等を書き上げた院生諸子に対して敬意を表するものである。また本誌においては、本年3月をもって修了が認められた院生諸子の修士論文と課題研究の要旨をひとり当たり1頁で掲載している。博士論文要旨については、ひとり当たり2頁で掲載されている。ただしここに掲載されている論文要旨は、本専攻の修了生であり、かつマネジメント学会の会員にかぎられている。

本年度の修士号取得者は12名であり、博士号取得者は6名である。博士号取得者数のみで単純に評価すべきことではないかもしれないが、大学院の学術的使命のひとつが、修士号取得者の輩出とともに、博士号取得者のそれであることを勘案すると、本専攻そして本学の学術的使命に貢献しているものと自負している。

また本年度末をもって、本専攻、本研究科を退職される教員がふたりいる。それは、戸田常一さん（地域政策論）と村松潤一さん（マーケティング論）である。本来であれば、退職記念号を刊行することになるが、おふたりともに、おそらくは謙虚さからご自身の退職記念号の刊行を辞退されている。そこで本号はおふたりの退職記念号としては刊行していない。

ともに長年にわたり本専攻と本研究科における教育と研究に対して貢献をしてください、またおふたりともにマネジメント専攻長とマネジメント学会長をも務められ、学内外における行政的職務や社会貢献にも尽力されてきた。ここに、おふたりに対して、敬意と感謝をしつつ、今後も心身の健康に留意され、平穏な教育研究生活をおくられることを祈念する次第である。

2017年3月

星野一郎

(広島大学マネジメント学会会長)